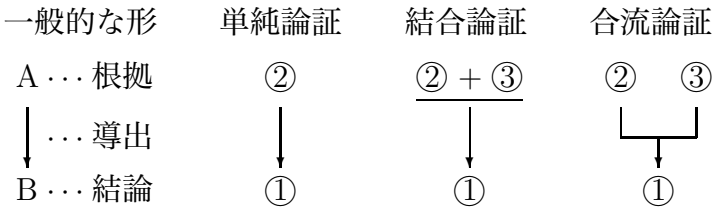
論理トレーニング 解答例 6　担当 新居 俊作

学籍番号　　氏名

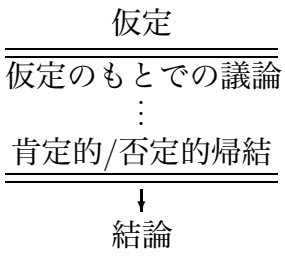
次の論証の論証図を作り、可能なかぎり反論を試みよ。

① 大学は 4 年間全てを専門教育に費やすべきである。② 最初の 1、2 年を教養教育に費やしてしまうと、③ 一人前の専門家になるのがそれだけ遅れ、④ その結果、学問が停滞しがちになるだろう。というのも、⑤ 学問を進歩させるような新しい発想は若い時期に生まれるものだからである。

論証図の書き方

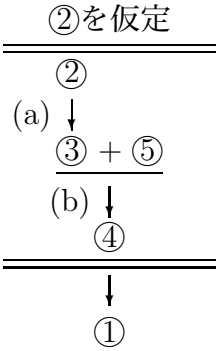


仮定を含む論証図の書き方



解答例

論証図



導出 (a) に対する反論。

(② を認めたうえで、② が ③ を意味することに対して反論する。すなわち、最初の 1,2 年を教養教育に費やしたからといって、専門家になるのが必ずしも遅くならない旨の議論をする。)

教養教育によって広い視野や発想を身につけることによって、専門の勉強が効率的に行えるようになるかもしれない。従って、1,2 年を教養教育に費やしても、一人前の専門家になるのが必ずしも遅くはならないかもしれない。

根拠 ⑤ に対する反論。

(学問を進歩させるような新しい発想に、必ずしも若さは必要無いかもしれない旨の議論をする。)

経験を積んで既存の発想を熟知してこそ得られる発想のほうが学問を進歩させるのには必要かもしれない。

(或は、「若さ」の基準に反論することも考えられる。)

学問を進歩させるような新しい発想には若さが必要だといっても、それは 50 代、60 代になってからでは柔軟性が無くなってしまうということであり、たとえ 20 才前後の時に勉強に 1,2 年余分にかかったとしても、それでも十分に若いうちに一人前の専門家になるかもしれない。

導出 (b) に対する反論。

(③ と ⑤ を認めた上で ③ と ⑤ が ④ を意味することに反論する。すなわち、専門家になることが遅くなるということと、学問を進歩させる新しい発想は若いうちに生まれるということが、必ずしも学問の停滞につながらないかも知れない旨の議論をする。)

将来学問の進歩に活用できるような新しい発想は、専門家になる以前の勉強中の時代にも得られるかもしれない。その場合、たとえ一人前の専門家になるのが遅れたとしても、若い頃勉強中に得た新しい発想を後から生かすことができれば、必ずしも学問の停滞にはつながらないかもしれない。

対立評価の提出

(この文章の論旨は、学問の停滞につながるから教養教育はすべきではない、というものなので、学問の進歩とは別の理由で教養教育をすべきである旨の議論をする。)

大学での教育の目標は、学問の進歩のみではなく社会に有用な人材を育てることでもある。そのためには自分の専門にとらわれない広い見識を身につけさせることも必要であるかもしれない。